

# 平成30年度 東京都立中野工業高等学校(定)学校経営計画

校長 鴻野 誠

## 目指す学校

本校は真に自立した社会人の育成を目指す学校である。そのために、「あいさつを大事にして職業人としての立ち居振る舞いができる生徒」、「就職・進学試験に合格できる学力の定着」を育成目標として掲げ、総合技術科の特色を生かして、教職員が学習指導、進路指導、生活指導、自立支援等に組織的に取り組む学校を目指す。

## 具体的な学校像

- 1 人権尊重を基盤とした教育活動を推進し、命のかかわる事故やいじめ、体罰の無い学校
- 2 産業界や関係機関から信頼され、ものづくりをとおして社会に貢献していく人材を育てる学校
- 3 法令を守り社会規範、社是・社訓、就業規則の内容を理解し、適正に職務を遂行できる態度を着実に身につけさせる学校
- 4 将来、就業先で上司から指示・指導・助言された内容を素直に履行できる態度を育てる学校
- 5 仕事を中心とした社会生活を送ることができる体力や働く力を身につけさせる学校
- 6 書類作成上必要な基礎的な知識・技能と読み書き、計算の能力を繰り返し着実に身につけさせる学校
- 7 挨拶を基本とする社会人として必要なコミュニケーション能力を確実に身につけさせる学校
- 8 日本国の一員として納税の義務を果たし、社会に貢献できる社会人を育てる学校
- 9 基本的生活習慣を育成するとともに、規範意識をもった人間を育てる学校
- 10 自分自身を大切にするとともに、他者に対しても思いやることのできる生徒を育てる学校
- 11 教職員が一丸となって生徒に必要な態度と能力を身につけさせる学校
- 12 保護者・地域社会から信頼され、保護者・地域社会と一体となって教育が推進できる学校
- 13 教育活動の円滑な実施に向け、自律経営推進予算の手続きの遵守による計画的な予算執行を行う学校
- 14 就職・進学に結びつく学力の基礎・基本を定着させる学校
- 15 働き方改革を推進し、教職員が生き生きと職務を遂行し、教育活動を行う学校
- 16 教職員のサービスの厳正を図り、サービス事故のない学校

## 中長期目標

本校の教育課程に設置された機械科目、食品工業科目の特色を出し、新たに電気工事関係、環境設備関係科目の導入の検討を継続させ、産業界から求められる人材を育成するための教育を創造する。また、東京都の都立高校改革推進計画とともに次期改革計画を踏まえ将来の工業高校のあり方を検討し、校舎の改築及び施設・設備の改修の検討を進める。地域企業及び地域住民や保護者から支持される学校づくりを推進する。

## 方策

- 1 地域の関係団体及び企業、都民などへのニーズを把握するとともに、東京都中小企業公社、商工会議所、地域の若者サポートステーション等の協力を得て、社会や産業界からのニーズに応じられる学校を開発する。
- 2 「都立高校改革推進計画・新実施計画及び次期改革推進計画」を踏まえ、夜間定時制のニーズを踏まえ、教育課程、校内規定の編成、募集対策、施設・設備の改修について着実に計画を進める。
- 3 平成38年度完成予定の改築の基本計画に基づいて、東京都、中野区、地域社会、学校が連携し、地域住民の理解と生徒の教育活動を維持・発展させながら着実に進めていく。

### 1 オリンピック・パラリンピック教育の推進

- 1 全ての教育活動をととしたオリンピック・パラリンピック教育の充実
- 2 オリンピック・パラリンピックの理解と啓発
- 3 体験的な活動の実施



全ての教育活動において、大会の意義や歴史、文化的のかかわりについて学ぶ機会を設け、年間事業計画に位置づけ学校全体で組織的、計画的に取り組む。

### 2 中途退学者対応と規範意識の向上

- 1 YSWと連携を図った中途退学者対策事業の推進
- 2 進級規定、特別指導規定等、校内規定の見直し
- 3 中途退学率5%以下



自立支援チームと連携し、不登校、中途退学者への対応を組織的に進め、校内規定等を見直し、学校に対する生徒の帰属意識と真に自立した社会人になるための意欲を高める。SCIいじめ対策委員会で生徒情報を共有し命にかかわる事故やいじめなどを未然に防ぐ。

### 3 キャリア教育の充実

- 1 教職員全員による企業訪問
- 2 就労生徒の増加(90%)
- 3 3年インターンシップ希望者全員参加(100%)
- 4 4年進路決定率(100%)



体系的なキャリア教育の全体計画を教職員に周知し、分掌横断的な連携を図った取組を行う。都や産業界主催のイベント、中小企業振興公社との連携による広域での企業開拓、中野区商工会議所との連携で行う地元中野区内の新規開拓等を実施し、インターンシップ・就職等、進路指導の充実を図る。

### 4 生徒のチャレンジの支援

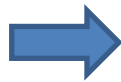
- 1 生徒をもっと外に出せ！キャンペーンを展開し、年度末に新たな課題に挑戦した生徒数を把握する。
- 2 地域貢献活動、資格取得、研究発表等の支援



1 学校外活動、地域行事への参加、各種資格取得等への取組、研究発表大会等への積極的なチャレンジ・参加を奨励し、生徒の達成感と自信を醸成する。

### 5 新学習指導要領に基づく学力観の転換と教員の授業力向上

- 1 新たな学力観に基づく校内研究授業の実施と授業改善
- 2 教員の相互授業観察(年間2回)
- 3 教員のICT活用授業率(100%以上)
- 4 生徒による授業評価で「分かりやすい」回答率(80%以上)



アクティブラーニングによる研究授業と教科横断的な授業改善を実施し、カリキュラムマネジメントを教科全体で進める。同教科、異なる教科各1回相互授業観察を実施し、ICT活用授業を学期に1回、年3回実施させる(授業観察、学校評価等で確認する)。2月に生徒による授業評価で「わかりやすい授業」を確認する。

### 6 主権者教育の充実

- 1 全ての教育活動をととした主権者教育の充実
- 2 主権者としての理解と啓発
- 3 体験的な活動の実施



生徒会選挙や区の選挙管理委員会との連携による模擬選挙等の体験的な取組を実施し、社会の一員としての自覚や有権者としての役割等について身につけるための活動を実施する。

### 7 教職員の働き方改革とサービスの厳正

- 1 職務の共有化・個別化、職務の質的転換ライフ・ワーク・バランスの推進
- 2 服務事故防止研修の意図的、継続的、計画的な実施



ICTの活用、会議など年間のスケジュールを決めて、進める。職務をスケジュール化し、効率的に行う体制をつくる。服務事故防止研修をはじめ、社会、他校での事故を教訓にして、未然防止の意識を醸成する。

	今年度の取組目標	具体的な方策
教務部	1 教育課程の適正な実施 2 諸帳簿の適正な管理 3 入選の適切な対応 4 募集対策の充実 5 広報活動の充実 6 生徒部との連携事業	1 年間指導計画、週ごとの指導計画の整合性を保ち計画的に教育活動が行われるように各教科との連絡調整を行う。 2 公文書を電子データとして、管理を徹底・トラブル及びミスを起こさないシステムを構築する。 3 入選業務の全体計画を作成し、点検・確認・コミュニケーションを徹底し組織的に対応する。 4 12月までに中学校訪問と学校説明会の計画を進め、在校生出身校と中野区中心に一人3校の訪問を目指す。 5 学校生活の状況を日々更新し、中学生や保護者がわかりやすいHPを運営する。 6 ノーチャイム月間を年間3回実施し、時間を守り授業に自ら向き合う力を育てる。
生徒部	1 規範意識の向上を目指した生活指導の充実 2 中途退学者防止に向けた特別指導規定の見直し 3 オリンピック・パラリンピック教育の推進 4 地域社会との連携による年間をとおした社会貢献活動の充実 5 関係諸機関と連携した健康教育の実施 6 給食指導の充実	1 授業規律や基本的な生活習慣の指導を徹底し、特別指導件数を5件以内にする。 2 多様な生徒の実態を踏まえ、特別指導規定を継続的に見直し生徒が学校生活に向き合えるように9月までに改善する。 3 東京都のパワーアップハイスクール事業を推進し、健康の保持増進と部活動を活性化し東京開催への意識を向上させる。 4 地域消防団と連携した避難訓練や野方地区祭り、中部フェスタに参加する。 5 関係諸機関から講師を招き、生徒の健康の保持増進を促す。 6 喫食率向上やアレルギー対策の充実をする。
進路部	1 4年間をとおしたキャリア教育の充実 2 インターンシップの充実 3 教職員の企業開拓 4 就職試験に向けた取組 5 定着率・離職率の調査の実施	1 入学から卒業までの4年間を見通したキャリア教育の全体計画を作成して生徒の職業観・勤労観を育てる。 2 3年生未就労者全員に対してインターンシップを12月までに実施する。 3 卒業生の就職先や新規の企業への訪問計画を9月までに計画し12月までに実施する。 4 面接指導、履歴書指導、一般教養を8月までに行い内定決定率を100%にする。 5 今年度卒業した生徒を対象に9月までに追跡調査を実施して結果を分析し在校生の進路指導の改善につなげる。
1学年	1 中途退学者防止に向けた取り組み 2 保護者との連携 3 就労活動の検討 4 行事の活性化	1 外部機関と連携したグループエンカウンターを実施し、中途退学者防止に取り組み進級率90%以上にする。 2 保護者との連絡を密にし協力体制を構築し、生徒の進級をともに促す。 3 就労体験を支援しアルバイト等の就労率80%以上にする。 4 学校への帰属意識を持たせるため行事への参加率を90%以上にする。
2学年	1 中途退学者防止に関する検討 2 保護者との連携 3 就労活動の検討 4 行事の活性化	1 教科担当者との情報共有を行い生徒の授業参加率向上を進め進級率90%以上にする。 2 保護者との連絡を密にし協力体制を構築し、生徒の進級をともに促す。 3 就労体験を支援しアルバイト等の就労率80%以上にする。 4 学校への帰属意識を持たせるため行事への参加率を90%以上にする。
3学年	1 中途退学者防止に関する検討 2 保護者との連携 3 就労活動の検討 4 行事の活性化	1 教科担当者との情報共有を行い生徒の授業参加率向上を進め進級率90%以上にする。 2 保護者との連絡を密にし協力体制を構築し、生徒の進級をともに促す。 3 進路部と連携してインターンシップ事業を実施し希望者全員を参加させる。 4 学校への帰属意識を持たせるため行事への参加率を90%以上にする。

	今年度の取組目標	具体的な方策
4 学 年	1 中途退学者防止に関する検討 2 保護者との連携 3 進路活動の検討 4 行事の活性化	1 教科担当者との情報共有を行い生徒の授業参加率向上を進め全員を卒業させる。 2 保護者との連絡を密にし協力体制を構築し、生徒の卒業をともに促す。 3 生徒の進路指導を進路部と連携して進路決定率100%とする。 4 学校への帰属意識を持たせるため行事への参加率を90%以上にする。
各 教 科	1 資格取得と検定受検の促進 2 授業や実習における規範意識の向上 3 授業力向上に関する取組み 4 オリンピック・パラリンピック教育の充実	1 卒業時まで複数の資格や検定を体験させ進路意識の向上とチャレンジする意欲を高める。 2 各授業で授業規律を徹底し、時間を守り授業マナーの向上を図る。 3 「わかる授業」を推進するためICT機器を利用した授業を年間3回以上実施する。 4 大会の意義や歴史、文化的なかかわりについてパラリンピックの競技種目の体験など年間授業計画に位置付け実施する。
経 営 企 画 室	1 学校経営状況の把握と分析 2 学校経営参画の推進 3 適正な事務運営 4 施設・設備の保安全管理 5 校舎改築準備の適正管理	1 学校経営状況の達成状況を検証し、必要な情報を収集分析する。 2 教職員と連携し、行政視点をもって相互に課題の解決に取り組む。 3 学校経営計画を把握し、根拠や規則に基づいた事務処理を行い、日常的に業務進捗確認の体制を築く。 4 設備点検を定期的に行い、劣化・破損・故障箇所の速やかな状況の整理と対応を行う。 5 校舎改築基本設計作業に遅滞がないよう適正な進行管理を行う。
教 育 課 程 委 員 会	1 教育課程の編成 2 弾力的な教育課程の推進	1 生徒の成長を目指す教育課程の編成と、改築委員会と連携して工業類型に関する教育課程の検討を行う。 2 新学習指導要領を見据え、スケジュールを検討し、本校の特色を踏まえた教育課程を編成する。 3 卒業まで責任を持って生徒を育てるため、進級・卒業に関する弾力的な校内規定の運用を進める。
図 書 運 営 委 員 会	1 図書館の運営に関する取り組み 2 生徒の図書館利用の向上の検討 3 受託者への適切な業務指示と法令を遵守した図書館運営	1 生徒のニーズを捉え、計画的かつ適切に蔵書を充実させる。 2 図書リクエスト制度や補講・補修のための自習室の活動など積極的な広報活動を行い図書館利用者を増加させる。 3 仕様書等契約関係図書および図書館管理運営方法に関する詳細を定めた「図書館マニュアル」に基づき業務指示を行う。
給 食 運 営 委 員 会	1 担任や栄養士と連携した生徒の喫食率向上の検討 2 食物アレルギーに関する対策	1 栄養面を配慮した給食や生徒のニーズを踏まえた給食について検討し、喫食率を向上させる。 2 養護教諭と連携して生徒の健康状況を把握し食物アレルギーなど事故のない給食運営を実施する。
学 校 保 健 委 員 会	1 生徒の健康づくりの推進 2 学校医等と連携した生徒の健康の促進	1 一斉健診を踏まえ生徒状況を把握したうえで、学校保健の年間計画を立案し実施をする。 2 学校医などと連携し生徒の健康課題を把握し健康の増進、保持に関する検討を行う。
ダ ー リ ー 議 議	1 機器の管理・購入の検討 2 ICT機器に関する検討	1 校内のPC機器の管理をし、定期的に更新できるように計画する。 2 ICT機器の活発な使用を目的とし、校内・外での研修会を企画する。
業 者 選 定 委 員 会	1 業者選定に関する検討	1 次年度修学旅行の業者選定を実施する。 2 4年生卒業アルバム作成業者選定を実施する。

	今年度の取組目標	具体的な方策
SC め 対 策 委 員 会 ・ い じ め 対 策 委 員 会	1 スクールカウンセリングに関する検討 2 いじめに関する検討 3 YSWに関する検討	1 月1回の委員会と校内研修会を開き生徒情報を共有し生徒理解と支援をする。 2 学期に1回、年間3回のいじめ防止アンケートを実施し、全職員で情報共有を図り、命にかかわる事故やいじめを未然に防ぐ。 3 自立支援チーム継続派遣校としてYSWと連携しキャリア教育への支援をする。外部の支援センターとの連携役として情報共有し支援を進める。
学 校 サ ポ ー ト チ ー	1 緊急時いじめ対応に関する検討 2 外部委員と連携方法の検討 3 SC・いじめ対策委員会との連携	1 生徒部・SC委員会・いじめ対策委員会と連携し生徒情報の共有を図る。 2 緊急対応に応じた組織体制を確立する。 3 年3回のいじめアンケートや学校評価アンケートを活用し生徒情報を共有し、命にかかわる事故やいじめの未然防止に努める。
シ ッ プ 委 員 会	1 未就労生徒の指導に関する検討 2 実施内容の検討	1 中野区商工会議所等と連携しインターンシッププログラムを計画し実施する。 2 保護者と連携して、生徒が就労体験を積極的に参加できるように支援しインターンシップの事前・事後の計画を作成し指導する。
教 科 書 選 定 委 員 会	1 教科書の調査研究 2 教科書の選定	1 教科書について各教科の調査研究を実施する。 2 年3回の委員会を開き生徒の実態を踏まえた最も適切な教科書の選定を実施する。
防 災 教 育 委 員 会	1 学校安全計画について検討 2 保護者、地域との連携の検討	1 保護者、地域と連携した防災教育の企画を計画し実施する。 2 生徒の中野区防災訓練への参加を計画・検討し、積極的に地域貢献できるシステムを構築する。
補 助 金 審 査 委 員 会	1 補助金に関する検討 2 保護者対応	1 年4回の補助金申請者の審査実施を適正に実施する。 2 経営企画室及び担任と連携し、対象の保護者に対して申請を促す。
開 学 力 推 進 委 員 会	1 教科指導に関する検討	1 授業相互参観や他校の授業参観を実施し、他教員の指導方法などを学び職員の授業力向上を図る。
安 全 衛 生 委 員 会	1 職場における安全衛生に関する検討 2 職員の健康維持	1 毎月1回の委員会を開催し、産業医を中心に労働環境の改善を行う。 2 職員の健康維持に関する職場環境の改善を図る。
改 築 委 員 会	1 全面改築に伴った学科編成の検討 2 施設・設備の検討	1 全面改築に伴い10年後を見据えた工業高校の学科・施設・設備を検討する。 2 生徒が利用できる施設や改善事項を検討し整理する。